

キリストの光のキリスト

年間第7主日 2月22日

(マルコ2・1-12)

見えないところで罪はゆるされる。見えないところで奇跡は行われている。

神の働きは目に見えないが、それはたしかに実現している。神のゆるしは神とのかかわりの中で起こり、それは、わたしたちの心の中で実現する。

司祭としてゆるしの秘跡に立ち会い、罪のゆるしを宣言するとき、目の前にいる方の中で神が働き、ゆるしと救いがそこで実現していることが見える。

人々は目に見える奇跡に驚いて神を賛美するが、奇跡は心の奥深いところで起きているもの。その人がその人の内で起きたことを見、そのことを行われた神を賛美する。

ゆるさずにはおれない

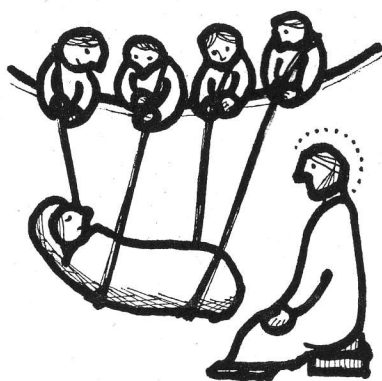
賛美という言葉の本来の意味は「すごい」ということ。「すごい」ことを見るとき、人々は驚く。その「すごい」ことをした方、存在まで見えるとき、人はその方をたたえる。「あなたはすごい」と。

罪のゆるしは秘密のように行われる。人には見えないところの奥底で起こる。そのことを知り、信じている人は神を賛美する。自分だけでなく、人もゆるさされていることを知り、信じている人は一緒に神を賛美する。教会はそのような集い。ゆるされたい人々の集い。ゆるし合う人々の集い。罪をゆるされる神と共に賛美する集い。

見えないゆるしを見えるよう

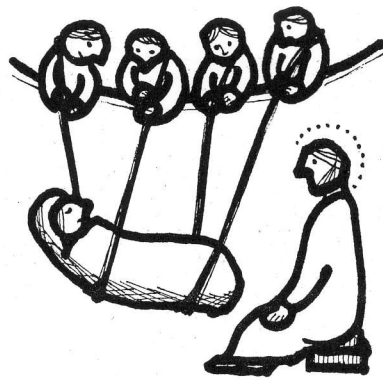
にすることを神は望まれる。互いにゆるし合うことを神は望まれる。その望みを「主の祈り」を唱えながら思い出す。

ゆるされたことのある人が



人をゆるすことができる。「子よ、あなたの罪はゆるされる」と言われて神のいつくしみに触れた人は、人にもその喜びを伝えたいと思う。人から「ゆるすよ」と言われたら、どんな

にすることを神は望まれる。
互いにゆるし合うことを神は望まれる。その望みを「主の祈り」を唱えながら思い出す。
ゆるされたことのある人が



人をゆるすことができる。「子よ、あなたの罪はゆるされる」と言われて神のいつくしみに触れた人は、人にもその喜びを伝えたいと思う。人から「ゆるすよ」と言われたら、どんな

にうれしいことか。神のゆるしが自分のところの中で実現したことを体験した人は、人のところの中で起こる奇跡を認め、神を賛美することができ

「ゆるすことができない」と思う人がいる。「ぜったいにゆるせない」と思う人がいる。「神もゆるすはすがない」と思う人がいる。「神がその人をゆるすなら、わたしは神を信じない」とさえ思うことがある。

それはとてもつらい思い。ゆるせたらどんなにいいだろうという消すことのできない思いが、認めたくない思いがこころの奥底にあるから…。
四旬節が始まる。主の受難

と死、復活を思う。主の残されたことば、十字架の上で言われたイエスのことばを思い起こす。「父よ、彼らをおゆるしください。自分が何をしているのか知らないのです」とルカは書き記している。
罪をゆるさないではおられない方。それが神。今日のイザヤ書に記されている。

(山元眞＝福岡教区司祭／カット＝高崎紀子)

今週の福音

23日・月マルコ9・14—29
24日・火マルコ9・30—37
25日・水マタイ6・1—6、16—18
26日・木ルカ9・22—25
27日・金マタイ9・14—15
28日・土ルカ5・27—32